

株式会社 近藤印刷

事業者紹介

創業は1954（昭和29）年。紙面印刷のほか、クリアファイルなどのフィルム印刷を主軸商品の一つとしていましたが、近年、環境への配慮から徐々にプラスチック製クリアファイルの売上げが減少。また社長自らが「印刷という大量生産・大量消費の産業」に疑問を感じ、社内で検討を重ねた結果、2020年に、5年ビジョン「自由な働き方のエシカル工房」を策定、生産物はもちろん、働き方も含めてエシカルな企業を目指してシフトチェンジをスタート。

廃材などを利用したノベルティ製品の企画や、地元貢献活動として行う出前ワークショップ「アップサイクル缶バッジ」、プラスチック素材の代わりに間伐材のスギやヒノキ、MDF（木質ボード）などを素材とする製品開発も行っています。

端材・廃材を利用するプロジェクト 「&ondo（アンドオンド）」

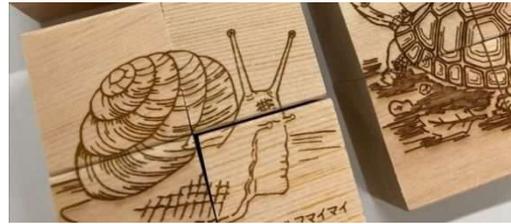
「&ondo（アンドオンド）」は、端材・廃材を利用してノベルティを製作する近藤印刷の新しいプロジェクト。企業やショップから出た端材などを利用して同社が企画・デザイン・印刷を行い、生物多様性やエシカルをテーマにした製品に生まれ変わらせています。

プロジェクト名の ondo には無機質にみ

える廃材に、暖かい温度を加えるという意味があります。

アップサイクルへの取組

ヒノキ廃材のパズルブロック



神具として使われる三宝（さんぼう）を製作した際に出た廃材のヒノキを使用。熱田神宮に住む生物をモチーフにしてデザイン、レーザー刻印を施してパズルブロックに。小学生の生物多様性学習教材として使用予定です。

飲料やお菓子のフィルムを かわいい缶バッジに

「コロナ禍で学校に行けない子どもたちに、何か楽しみを…」こんな思いがきっかけとなりスタートした、ペットボトル飲料や菓子のパッケージフィルムを利用した「アップサイクル缶バッジ」づくり。

缶バッジは、サイズに合わせてフィルムから好きな絵柄部分を選び、専用メーカーでプレスすればその場で出来上がるため、誰でも簡単に作ることができます。

「パッケージフィルムには優れたデザインも多く、それをそのまま捨てるのはもったいない、何かに生かしたい、そんな気持ちもこの活動につながりました」(近藤さん)

「子どもたちが目をキラキラと輝かせながら、缶バッジづくりをする姿を見るのが何よりうれしい。モノの大切さや、モノができるまでの経緯なども学んでもらえたら」
(草野さん)

社会福祉事務所や学童保育で実施したところ、子どもたちから人気となり、現在も学校や施設などで出前教室を行っています。



フィルムのお気に入り部分を切り取って…。



缶バッジ専用のメーカーでプレスしたら…。



世界で一つの宝物の完成！

今後の課題や展望

「社内にはエシカル推進室を設け、セッションごとに推進状況をチェックしています。こうして組織の枠を超え、チームとしてエシカルな企業を目指すことは、社会や地域還元はもちろん、会社の未来にもつながると考えています。

アップサイクルにおいては、廃材やいらなくなったものを単に何かに形を変えるだけではなく、印刷産業の本来の役割である『伝える』という点を見つめなおし、生物多様性やエシカルをテーマにした商品開発に取り組みたいですね」(近藤さん)

事業者について

株式会社 近藤印刷

名古屋市中川区石場町 2-51

TEL 052-361-5445

<https://www.noah-digital.co.jp>